



1963 (昭和38)年

友納武人 千葉県知事就任

新たな国鉄千葉駅の完成

市原市誕生

千葉県旗制定

1964 (昭和39)年

行川アイランド(勝浦市)が開業(2001年閉園)

加曽利貝塚発掘調査開始

東京オリンピック開催

千葉県工業用水道事業の給水開始

1965 (昭和40)年

山倉ダム(現市原市)完成、本県初の県営工業用水道として全部給水開始

両総用水の完成

1966 (昭和41)年

習志野高校サッカー部が全国高校サッカー選手権大会で千葉県勢初の優勝

県営初の有料道路「房総フラワーライン」開通

千葉ニュータウン事業が開始

県スポーツセンター 陸上競技場完成

高度経済成長期を経て
成田空港の建設やバブル期へ。
ニュータウン計画など経済が発展

1964

(昭和39)年

東京五輪開幕
千葉市でも競技が開催

東京大学検見川総合運動場 / 千葉市

1964(昭和39)年、東京オリンピックが開幕。県内でも、千葉市内の東京大学検見川総合運動場を会場に、近代五種競技のうちクロスカンントリーが行われた。皇太子殿下も見守る中、馬術、フェンシング、射撃、水泳の4種目を終えた15か国25人の選手によるレースが繰り広げられた。県勢では、福留義秀選手が7位に入賞した。

1966

(昭和41)年

県営初の有料道路「房総
フラワーライン」が開通

房総フラワーライン開通式 / 館山市

南房総国定公園の海岸線を結ぶ「県営南房州有料道路(房総フラワーライン)」が開通。当初は洲崎灯台から野島崎灯台を結ぶ約17kmの第一有料道路、千倉町矢原から和田町松田を結ぶ約5kmが第二有料道路として、1966(昭和41)年に開通した。その後1977(昭和52)年に無料開放となり、現在は館山市下町交差点から南房総市和田町までを結ぶ約46kmのシーサイドラインとなる。

1963

(昭和38)年

国鉄千葉駅が現在の場所に移転



移転前の千葉駅 / 千葉県立中央博物館



現在地に移転した千葉駅 / 千葉県立中央博物館

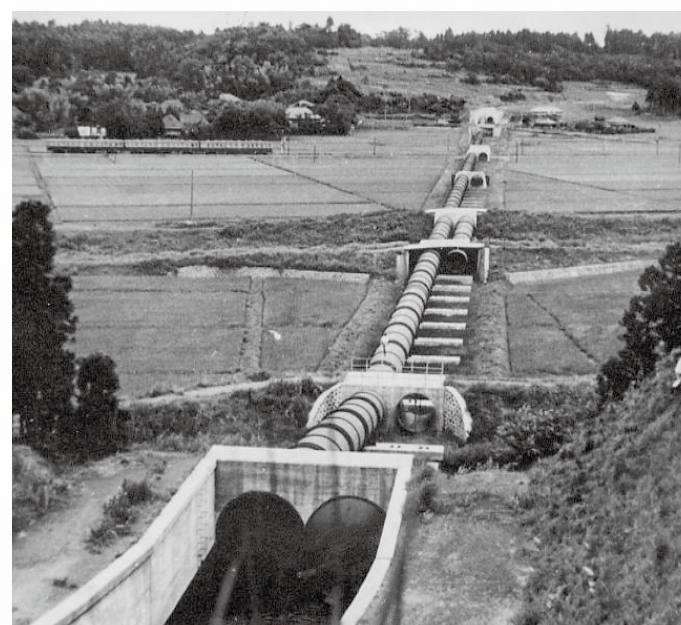
1894(明治27)年の総武鉄道の駅としての開業以来、現在の千葉市民会館付近(千葉市中央区要町)に位置していた国鉄千葉駅は、1963(昭和38)年、現在の場所(千葉市中央区新千葉)に移転した。

移転前の千葉駅では、駅の構造上、東京方面から内房・外房方面に向かう列車はスイッチバックする必要があり、列車の長時間の停車を余儀なくされていた。移転により東京方面との連絡が効率化されると利便性が向上し、千葉駅周辺は急速な発展を遂げることとなった。

高架駅移転から半世紀以上が経過し、2016(平成28)年には新駅舎・エキナカがオープン。千葉駅周辺は再開発が進み、新たな商業施設や住宅が誕生している。

1965

(昭和40)年

千葉県の戦後開発。農業と産業発展を支えた
農業用水網整備と干拓事業

8号サイホン / 両総土地改良区史(上巻より引用)

1945(昭和20)年以降の食糧難を背景に、印旛沼や手賀沼の干拓が実施され、新たな農地が創出される。江戸時代から水不足の課題を抱えていた九十九里地方では、利根川を水源とする大規模な農業用水網の整備が行われた。大利根用水は1951(昭和26)年の完成であり、県北東部の利根川沿岸地域の排水と、九十九里平野北部への農業用水供給を担う重要施設である。1965(昭和40)年には両総用水が完成し、下総・上総両地域の用水不足解消と排水改良に貢献している。印旛沼の干拓事業は1969(昭和44)年に完了し、農地開発と治水機能の向上をもたらした。一方、東京湾岸では1950年代後半から約50年の歳月をかけて京葉臨海地域の造成が進められた。これらの開発事業は千葉県の産業発展を支え、現代の地域基盤を形成する上で重要な役割を果たしている。

1966 (昭和41)年

新空港建設地として、成田市三里塚を
閣議決定

1967 (昭和42)年

流山市、八千代市誕生

県文化会館開館

運輸省が新東京国際空港(現成田国際空
港)工事実施計画を認可

神崎大橋(神崎町)が開通

習志野高校野球部、全国高校野球選手権大
会で千葉県勢初の優勝

京成「国鉄千葉駅前駅」(現京成千葉駅)が
開業

1968 (昭和43)年

成田ニュータウン事業が開始

県人口300万人突破

県立中央図書館が完成

1967 (昭和42)年

県文化会館が開館



県文化会館 / 千葉県立中央博物館

1967(昭和42)年、千葉県文化会館が開館。
1,790席の大ホールをはじめ、小ホールなど各種設備
が整えられ、コンサートなど文化芸術活動に活用され
ている。デザインは建築家の大高正人^{おおかた まさと}が手がけ、日本
建築学会賞作品賞や日本建設業連合会によるBCS賞
を受賞するなど、優れた建築物として高い評価を受け
ている。また、周辺は「千葉文化の森^{せいかんどう}」と呼ばれ、県立中
央図書館、結婚式場であった聖賢堂や天守閣の外観を
模した千葉市郷土博物館などが整備された。



県文化会館 / 千葉県立中央博物館

千葉県の歴史コラム

成田空港のあゆみ

成田空港の建設と反対運動

1960年代、羽田空港が我が国の表玄関としての役割を
担っていたが、増大する航空需要を背景に首都圏における
新空港建設構想が浮上し、候補地の変転を経て、1966(昭
和41)年7月に成田市三里塚周辺への新空港建設が閣議
決定された。

しかし、地域住民の強い反発を招き、反対同盟が結成さ
れるなどの激しい反対運動が展開された。反対運動が続く
中、開港は延期を余儀なくされ、1978(昭和53)年5月に
「新東京国際空港」(後に「成田国際空港」と改称)として
4,000mのA滑走路1本で開港した。

その後、1990(平成2)年の運輸大臣と反対派住民との
対話をきっかけに、空港整備を話し合いで解決する機運が
高まり、「成田空港問題シンポジウム」・「成田空港問題円卓
会議」が開催され、今後の空港整備を民主的手続きで進め
ることが合意された。



新東京国際空港公団職員の立ち入り調査を監視するた
めの、現地闘争本部のヤグラ / 朝日新聞社

開港後の機能拡充と第2の開港

開港後も年々増大する航空需要に対応するため、空港機能の拡充が図られた。

1992(平成4)年に第2旅客ターミナルが完成し、2002(平成14)年には2,180mの暫定平行滑走路
(後に2,500m化、現B滑走路)の運用が開始された。2015(平成27)年にはLCC(格安航空会社)向けの
第3旅客ターミナルがオープンした。

現在の成田空港は、年間約4,000万人が利用する「日本の表玄関」として、さらに輸出入総額が日本一
の「最大の貿易港」として経済の発展や文化の交流に貢献している。

さらに、近年、世界的な航空需要の拡大やアジアの巨大空港の建設により、空港間競争が激しさを増すと
ともに、我が国でも外国人観光客誘致などにより訪日客が急増した。こうした中で、2018(平成30)年3月
に地域との協議を経て、3,500mの第3滑走路(C滑走路)新設やB滑走路延伸(3,500m化)などによって、
30万回の年間発着枠を50万回とする「更なる機能強化」が合意され、2029(令和11)年3月末の滑走路
供用開始を目指した整備が進められている。



開港時の成田国際空港 / 成田国際空港株式会社



現在の成田国際空港 / 千葉県

1969 (昭和44)年

印旛沼開拓事業完成

海浜ニュータウン事業が開始

県内最後のSL旅客列車が千葉―銚子間で運行

県内農業生産額において野菜(570億円)が米(550億円)を上回る

1970 (昭和45)年

一般会計の総額が1,109億円となり、初めて1,000億円を超える

千葉ニュータウン造成が船橋市小室地区で着手

我孫子市誕生

関東地方南部の大雨による大規模水害

鴨川シーワールド開業

1971 (昭和46)年

県立上総博物館(現木更津市立郷土博物館)開館

新東京国際空港(現成田国際空港)建設のための行政代執行

千葉テレビ開局

千葉県こどもの国(市原市)開業

鴨川市、鎌ヶ谷市、君津市、富津市誕生

1972 (昭和47)年

九十九里有料道路が開通(九十九里町〜一宮町間)

房総東・房総西線が外房・内房線に改称、特急さざなみ・わかしおよび快速電車運転が開始

国鉄千葉駅前にニューナラヤが開業(経営に三越参画)

県がんセンター開設

木更津航空基地からアメリカ軍が引き上げ自衛隊駐屯地になる

1973 (昭和48)年

千葉県誕生100周年

第28回国民体育大会(若潮国体)開催

1971 (昭和46)年 千葉県こどもの国が開業



こどもの国(市原市) / 「千葉県百年のあゆみ」より

市原市の山倉湖畔に「千葉県こどもの国」が開業。自然環境を最大限に活かしたプールや釣り堀、サイクリングコース、ゴーカートやサイクルヘリコプター、バーベキュー広場などの施設がある。2007(平成19)年に「千葉こどもの国キッズダム」と名称変更した。

1971 (昭和46)年 チバテレが放送開始



千葉テレビ開局(昭和46年開局) / 「千葉県百年のあゆみ」より

1970(昭和45)年に設立した地上波放送局「千葉テレビ放送(チバテレ)」。1971(昭和46)年2月から試験放送を開始した。関東では「群馬テレビ」に次ぎ、2局目の独立放送局として開局。千葉県を放送対象地域とし、県内市町村の日々のニュースやスポーツ、災害など、幅広い情報を県民へ発信し続けている。

1970 (昭和45)年 鴨川シーワールド開業



1970年オープン当初 / 鴨川シーワールド



シャチの初パフォーマンス / 鴨川シーワールド

1970(昭和45)年、鴨川シーワールドが開業。海の王者シャチをはじめ、ブルーガやイルカ、アシカのパフォーマンスのほか、自然環境を再現した展示を通して、たくさんの川や海の生物に出会うことができる。

1960年代 広大なニュータウンの整備に着手



千葉ニュータウン(印西市)工事の様子 / 千葉県立中央博物館

1960年代に入ると、千葉県の人口は急激な増加が始まり、柏市や松戸市をはじめとする団地建設が始まったのもこの頃であった。急激な人口増加による都市化により様々な問題が生じ、県では民間による乱開発を防ぐため、「千葉ニュータウン」をはじめ、「成田ニュータウン」、「海浜ニュータウン」の整備を始めた。

1973 (昭和48)年 県では初となる「若潮国体」が開催



「若潮国体」開会式 / 千葉市

1973(昭和48)年、第28回国民体育大会(若潮国体)が開催された。千葉県では初めての国体開催となる。千葉市をメイン会場に、県下22市6町村で27競技が実施され、高度経済成長期の千葉県の発展を象徴する大会であった。県総合運動場陸上競技場(現県総合スポーツセンター陸上競技場)で行われた開会式は、当時の活気に満ちた県勢を示す記念碑的な催しであった。国体開催のため、運動施設や主要幹線道路などの整備も進められ、また、国体後の10月27日〜28日には「第9回全国身体障害者スポーツ大会」も開催され、陸上や車椅子バスケットボール、洋弓等7種目の競技が行われた。

これらの大会開催は、千葉県民にとっての大きな誇りであり、地域スポーツの発展や次世代の選手育成においても重要な役割を果たす。産業発展・文化・スポーツ面での千葉県の成長を全国に示す機会となった。

1974 (昭和49)年

県立美術館開館

県人口400万人突破

1975 (昭和50)年

川上紀一 千葉県知事就任

1976 (昭和51)年

「いなげの浜」(千葉市)完成

1977 (昭和52)年

ちば県民だより創刊

1978 (昭和53)年

新東京国際空港(現成田国際空港)開港
(A滑走路4,000m、第1旅客ターミナルビル)

1980 (昭和55)年

県救急医療センター開設

勝浦海中展望塔開業

千葉港貨物取扱量1億5200万トンで日本一に

1981 (昭和56)年

亀山ダム竣工

浦安市、四街道市誕生

沼田武 千葉県知事就任

県北西部を襲った台風24号による大規模水害

1983 (昭和58)年

県人口500万人突破

睦沢町誕生

国立歴史民俗博物館(佐倉市)開館

東京ディズニーランド(浦安市)開業

1984 (昭和59)年

県民の日(6月15日)制定

1985 (昭和60)年

ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉
(現千葉交響楽団)結成

千葉市動物公園開業

千葉県精神科医療センター開設

1974
(昭和49)年

県立美術館が開館



建設中の県立美術館 / 千葉県立美術館



開館記念式典の様子 / 千葉県立美術館

1974(昭和49)年、千葉市に千葉県立美術館が開館。建築家・大高正人の設計により、約1万坪の敷地に8つの展示室が段差なく配置され、洋画家・浅井忠のほか千葉県ゆかりの美術家作品を重点的に収集している。

1976
(昭和51)年

国内初の人工海浜「いなげの浜」完成



千葉市の埋め立て地先に「いなげの浜」オープン / 千葉県立中央博物館

1976(昭和51)年、千葉市内稲毛海岸の埋め立て地に、人工海浜「いなげの浜」が完成した。埋め立てによって失われた砂浜を取り戻すことを目的に造られた。国内では初となる人工海浜で、世界ではモナコ公国のモンテカルロ・ラルポット海岸に次いで2番目。周辺は稲毛海浜公園として整備され、千葉市花の美術館、プール、運動施設、ヨットハーバーなどがあり、四季を通じて楽しむことができる。

1984
(昭和59)年

6月15日を 県民の日



令和4年度 県民の日中央行事チラシ / 千葉県

県民が500万人を突破したことを記念し、1984(昭和59)年、「県民が、郷土を知り、ふるさとを愛する心をはぐくみ、共に次代に誇りうる、よりゆたかな千葉県を築くことを期する日」として6月15日が県民の日

1983
(昭和58)年

国立歴史民俗博物館が開館



建設中の写真 / 国立歴史民俗博物館



開館時の様子 / 国立歴史民俗博物館



開館式 / 国立歴史民俗博物館

1983(昭和58)年、佐倉城址の一角に国立歴史民俗博物館が開館。明治への改元から100周年となる節目を契機として日本政府が主催した「明治百年記念事業」の一環として建設された。歴史学、考古学、民俗学の資料展示など、先史・古代から現代に至るまでの日本の歴史と文化について研究・展示を行っている。

1985
(昭和60)年

千葉市動物公園が開業



千葉市動物公園 / 千葉市

1985(昭和60)年、千葉市動物公園が開業。1991(平成3)年には、園内に遊園地「ドリームワールド」がオープンした。2005(平成17)年には、同園で飼育しているレッサーパンダ「風太」が、後ろ足で直立する姿がメディアに取り上げられたことから全国的な人気を博し、2008(平成20)年には市民寄贈による石像が園内に設置された。

1985
(昭和60)年

現千葉交響楽団が結成



ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉 / 公益財団法人 千葉交響楽団

1985(昭和60)年、県内唯一のプロオーケストラ「ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉」が結成。現在は「千葉交響楽団」へと名称を変更し、定期演奏会をはじめ、県民芸術劇場や各地での演奏会のほか、小中学校・特別支援学校での巡回公演を開催するなど、年間約150公演を実施。千葉県の音楽文化の向上、音楽教育の普及に努めている。

1986 (昭和61)年
県民の日に千葉ポートタワー開業
房総のむら開館

1987 (昭和62)年
千葉県東方沖地震 (M6.6) 発生

1988 (昭和63)年
千葉都市モノレール開業

県文書館開館

ソウルオリンピック競泳100m背泳ぎで金メダルを獲得した鈴木大地が初の県民栄誉賞受賞

県こども病院開設

谷津干潟が国指定鳥獣保護区・特別保護区に指定

1989 (昭和64/平成元)年
千葉相互銀行、商号を京葉銀行に変更

県立中央博物館開館

房総丘陵における豪雨による大規模水害

bayfm開局

幕張メッセ開業

1990 (平成2)年
千葉マリンスタジアム開業

アメリカ合衆国ウィスコンシン州との姉妹友好提携

高滝ダム竣工

1991 (平成3)年
袖ヶ浦市誕生

県東総文化会館開館

プロ野球ロッテ球団の千葉マリンスタジアム (千葉市) への移転が正式決定

第1回成田空港問題シンポジウム開催

1992 (平成4)年

千葉市が政令指定都市へ移行

八街市誕生

県立青葉の森公園芸術文化ホール開館

成田空港第2旅客ターミナルビル開業

1988
(昭和63)年

千葉都市モノレール開業

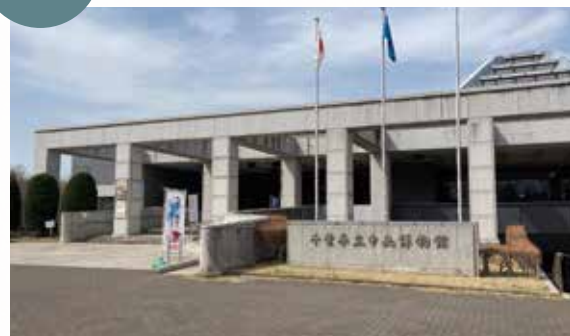


一番列車出発式 / 千葉都市モノレール株式会社

千葉市における高度経済成長期の急激な人口増加と交通渋滞問題を解決するため、千葉県と千葉市が中心となり、新たな交通手段として導入された千葉都市モノレール。1988 (昭和63) 年に一部区間で運行を開始した。1999 (平成11) 年には全区間で開通。15.2kmの営業距離は、懸垂式モノレールとしては世界最長としてギネス世界記録に認定されている。

1989
(平成元)年

県立中央博物館が開館



県立中央博物館 / 千葉県



県立中央博物館の展示室 / 千葉県

1989 (平成元) 年、県立中央博物館が開館した。「房総の自然と人間」を常設展示の全体テーマとし、千葉県の自然と歴史について学べる総合博物館。日本で唯一、隣接する野外に生態園を併設した博物館で、房総の代表的な自然が再現され、動植物の生態を身近に観察することができる。

1989
(平成元)年

幕張新都心の整備と幕張メッセオープン



幕張新都心 / 朝日新聞社



幕張メッセ / 千葉県立中央博物館

1968 (昭和43) 年、都心部から30km圏、広大な埋め立ての可能な稲毛、検見川、幕張に計画人口24万人の海浜ニュータウン整備が計画された。1973 (昭和48) 年に幕張地区の埋立工事に着手し、1980 (昭和55) 年に埋立工事が完了した。その間、住宅中心の土地利用計画を大幅に見直し、現在の幕張新都心を構成するほとんどの要素が盛り込まれた「幕張新都心基本計画」や教育文化機能を充実させる「学園のまち」構想を発表した。

1983 (昭和58) 年には、県が成田市、千葉市、木更津市・君津市を中心とする地域で進める3つのプロジェクトを基幹とした「千葉新産業三角構想」を策定、幕張新都心は本構想の一角を担っている。そして1989 (平成元) 年、国内最大級のコンベンション施設である幕張メッセがオープンし、これにより、幕張新都心は国際コンベンション都市としての地位を確立した。その後、オフィスビルや商業施設、住宅地の整備が進み、「職・住・学・遊」の複合機能を持つ都市として発展。幕張ベイタウンや若葉住宅地区の住宅整備も推進され、多くの人々が居住し活動する街となった。

千葉県の歴史コラム

千葉県の野球人気と長嶋茂雄



県民栄誉賞表彰式 (2013 (平成25) 年5月31日) / 千葉県

国民的スター、長嶋茂雄は佐倉第一高校の野球部を経て、立教大学で東京六大学のスター選手となると、1958 (昭和33) 年に読売ジャイアンツに入団した。特に「ON砲 (3番王貞治、4番長嶋茂雄)」として1965 (昭和40) 年からの「V9 (日本シリーズ9連覇)」に大きく貢献し、1974 (昭和49) 年に引退するまで第一線で活躍し続けた。

長嶋の活躍と同時期、1960年代から1970年代にかけて千葉県の高校野球も「野球王国」と呼ばれる時期を迎えた。1967 (昭和42) 年に習志野高校が夏の甲子園で県勢初の優勝を遂げると、1974 (昭和49) 年に銚子商業高校、1975 (昭和50) 年に再び習志野高校が優勝し、県勢での連覇も達成した。

引退後の長嶋は1975～80年と1993～2001年に読売ジャイアンツの監督を務め、リーグ優勝5回・日本シリーズ優勝2回の結果を残した。野球人気に強く影響を与えたことで、2013 (平成25) 年には国民栄誉賞、県民栄誉賞を受賞した。